

センター便り

巻頭言

「日々思ひごとく」

育成課課長補佐

天良 里美

施設の廊下を歩いている時に、窓ガラスに映る自分の姿を見て、背筋をピンとすることがあります。些細なことですが、気持ちの切り替えになり、一呼吸することができま

す。 コロナ禍で生活習慣が変化しつつあり、人と人との距離間や生活の楽しみ方の工夫も職員に求められるようになりました。職員の新しい発想や意見に期待がもたれています。利用者にとっての魅力ある生活に向け、どのようにしたらできるか、楽しめるかを多職種間で考え、意見交換できる環境作りを目指しています。また、利用者の気持ちに寄り添い、安心安全な生活の提供ができたか、日々の支援を振り返り、明日につなげたいと思います。 毎日、心と体が同じ状態であることが難しいこともあり、利用者の支援をする時も、どこかで背筋をピンとさせる瞬間を自分なりに作り、

笑顔で利用者と関わられるよう自分を磨きたいと思います。



「秋といえは」

総務管理課主幹

草野 心路

10月に入り、暑さもだいぶ和らいできました。秋といえは紅葉のシーズン。今年はコロナの影響で観桜も楽しめなかったもので、秋こそは木々の彩を感じたいものですね。 さて、もう一つの秋のシーズンと言えば「台風」です。昨年の台風で全国的に大きな被害をもたらしたことは記憶に新しいのではないのでしょうか。当施設がある地域は地盤が低く、浸水しやすい地域です。昨年の台風19号の際には近隣の幹線道路が水没し、一時通行できない状態になりました。また、施設への浸水を危惧し、

入所児を2階に避難するという厳しい選択を迫られました。当施設の2階へは狭い階段を利用するしか方法がなく、また、利用者が使用するためのスペースもありません。そのような中、これまで経験のない2階への避難を断行しました。 地震や火災時の避難につい

ては、ある程度マニュアルの整備がされていますが、浸水時の避難についてはまだまだ細かな整備ができておらず、改めて準備の必要性を痛感しました。

いま社会福祉施設には「事業継続活動（BCP）」の策定が求められています。施設を利用されている方が安心して避難できるように、そして職員自身も緊急時に冷静な対応ができるように、より有効性のある計画の整備が急務といえます。

50年に一度や100年に一度の風水害が頻繁に起きないことを祈りながら、自然の移ろいを感じ始めた秋の頃です。



「ほめる」こと难し

相談員 森沢 健

いろいろな相談で、「おっ!」と思うような参考になる話を耳にすることもあります。そんな中から、一つのお話を紹介したいと思います。「ほめて育てよう」という言葉を目にする機会が増えましたが、ほめることができても、ほめ続けていくことは、なかなか困難です。理由はほとんど同じで、ほめることがないから、

あるいは、ほめるネタが底を突いたといえます。

そこで、あるお母さんのお話の引用です。ほめ続けることができない理由とは…

「良くなったことを探してほめようとするから続かないんですよね。できたことをできたねって言う分には毎日何かできてるんですけどね。」

なるほど、とても解りやすい説明です。「できたことをほめてあげましょう」とは言いですが、この話を聞いてからは、「ほめる」ために、良くなったことよりも、習慣づいていることやお手伝いなど、「できたね」と声を掛けられる材料を探しましょう!と、相談では伝えていきます。



各種活動報告

☆入所イベント☆



夏祭りの

生活支援員 佐野 綾子

8月20日(土)に毎年恒例となっている伊豆医療福祉センターの夏祭りが開催されました。 今年度は新型コロナウイルス

の影響で規模を縮小して行い、またご家族の方にも雰囲気を感じて頂けるようにZOOMを使用してインターネット経由で行いました。

『センター村の夏祭り』をテーマに夏祭り当日に向けて入所者全員で中央の柱をツリーに見立てて準備をしました。当日はかき氷・たこ焼きなどの模擬店、ゲーム、車いすダンスでみんなの笑顔が溢れた楽しい時間を過ごす事が出来ました。



夏祭り太鼓発表

作業療法士 久保 春香

今年の夏祭りでの太鼓演奏は、外来太鼓メンバーと入所太鼓メンバーでZOOMを繋いで行いました。初めての試みで、少し不安はありましたが、オープニングに相応しく、

演奏者はもちろん、利用者さんや職員みんなで楽しく演奏することができ、とても盛り上がりました。太鼓メンバーの皆さん、素敵な演奏ありがとうございました。

プール

生活支援員 正治 綾子



普段、指先をカリカリと動かしたり、頭を左右に動かしたりしながら職員に話かけている利用者さんが、プールの中で全身を動かして泳いでいました。その光景を目にした時、日常生活では味わえない全身に伝わってくる感触や冷たさに面白さを感じているようでした。変化している時代の中でも、一夏の思い出になったように感じました。



日中活動

生活支援員 佐藤 里菜

センターのアイドル4名を集め、毎週金曜日に幼児活

動を行っています。ゆったりとした雰囲気の中で、光遊びやリズム遊びをしています。また、秋になったので晴れた日にはお散歩に出掛け外気浴をして季節を感じています。夏には大きなプールにも入り、みんなとってもいい表情で過ごす事が出来ました。これからも楽しんでもらえようように頑張っていきたいと思っています。

☆通所イベント☆



お化け屋敷

保育士 伊藤 希

夏を感じる活動の一つとして、「お化け屋敷」を体験しました。

いつもと違う空間に入った瞬間から気づき、BGMやおばけたちに恐怖を感じたり、驚いたり、活動の中ではあまり見ることのできない利用者さんの様子や新たな一面を発見することができました。



運動会

保育士 皆川 千咲

9月26日(土)、児童発達支援事業「ポリポリ運動会」を開催しました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、例年とは異なる会場の変更や時間短縮での実施となりました。一人一人にスポーツがあたり障害物競争と親子での車いすダンスの2種目でしたが、みんな楽しそうに友だちやお父さんお母さんとの時間を過ごす事が出来ました。



総合防災訓練

防災委員 山根 あゆみ

8月27日(木)、雨天の中、訓練が始まりました。入所者の集合場所を緊急搬送口、及びデイセンターとして速やかな避難ができました。

簡易トイレの設置訓練や消火栓・消火器の使用訓練も行いました。

防災食の試食検討では、複数種類の非常食を試食して意見を出し合いました。今回は職員のみを試食でしたが、今後は入所者にも試食していただき、備蓄する防災食の改善につなげたいと思います。



寄贈品

センター利用者保護者様

他にも沢山の方から温かいお心遣いをいただきました。ありがとうございます。

お知らせ

今年度の施設一般公開「にじの会」は新型コロナウイルス感染症流行の為、開催を見送る事に決まりました。

編集後記

日々朝晩の冷え込みが厳しくなってきました。

新型コロナウイルス感染症もそうですが、風邪やインフルエンザにも気を付けてお過ごしください。(広報委員会)